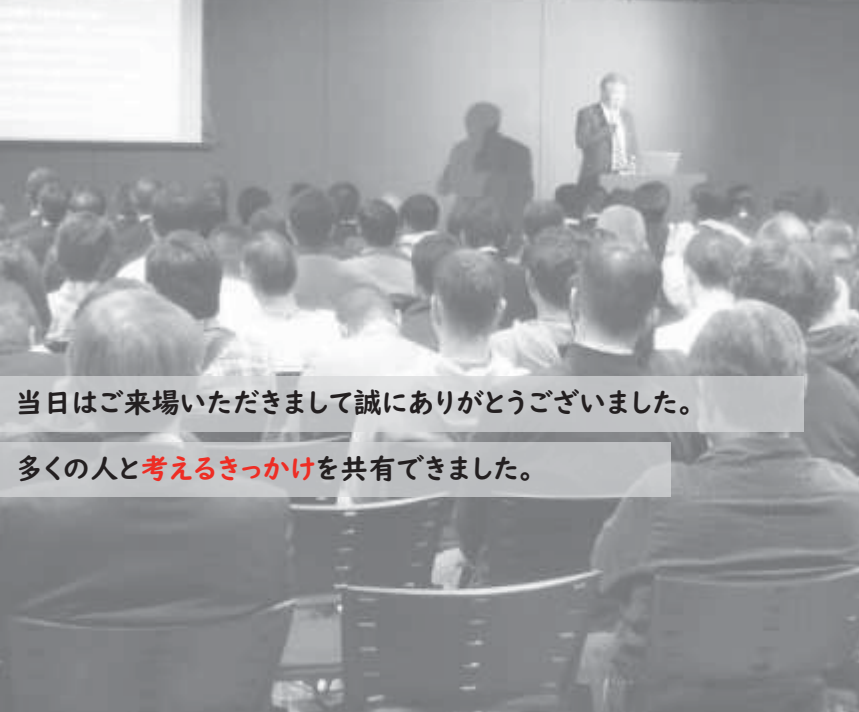




再犯防止シンポジウム2019 in 関東ブロック

薬物依存からの回復を考え、**支える**ために
開催結果報告



去る11月10日に開催した再犯防止シンポジウム2019 in 関東ブロックには**190名**の方にご参加いただき、意義深い会となりました。ご参加いただいた皆様、ご協力を賜った皆様に深く御礼申し上げます。

国の関係機関だけではなく、(株)小学館集英社プロダクションと共に、また、地方公共団体や民間団体等にもご参加いただき、誰一人取り残さない社会の実現という再犯防止推進計画の理念の下、ご登壇の方々と、依存症への理解と、薬物依存症からの回復に向けた継続的な治療・支援の必要性を共有させていただきました。

手前味噌ながら、非常に価値のあるシンポジウムにすることができたと自負しております。他方で、進行等に不手際がありました点について、心からお詫び申し上げます。

今後とも、皆様と共に再犯防止という取組を通じて、よりよき社会を実現できるよう考え、行動していきたいと思っております。

更生支援企画課長 都坂 圭吾

講演及びパネルディスカッションの概要をまとめましたのでご紹介いたします。

講演 埼玉県立精神医療センター副院長 成瀬暢也氏

「依存症に対する正しい知識と必要とされる支援」

成瀬暢也先生には、依存症治療に向き合って来られた経験に基づくお話を、丁寧に、かつ温かく語っていただきました。

○依存症の特徴

- 依存症は適切な治療・支援により回復する病気である。
- 依存症の患者に共通した特徴として、男女・年齢・使っている薬物に関係なく、「**自己評価が低く自分に自信を持ってない**」, 「**人を信じられない**」, 「**本音を言えない**」, 「**見捨てられる不安が強い**」, 「**孤独で寂しい**」, 「**自分を大切にできない**」がある。これらの問題は(依存症患者に限らず)誰もが持っている。
- 依存症の患者は、対処できない困難に直面したとき、酒、薬物によって気分を変えてしのいできた。人と信頼関係を築けずに、人に癒されることなく、孤独に生きてきた。

○依存症からの回復

- 依存症からの回復には、失敗を許され、正直になれる安全な場所が必要である。
- 本音を言えるようになること、正直な気持ちを安心して話せるようになることを徹底して行うことが、回復への突破口となる。
- 依存症の回復を困難にしている最大の原因は、治療者、支援者、一般社会の**依存症患者に対する陰性感情、忌避感情、誤解と偏見に基づくバッシング**である。





パネルディスカッション

「薬物依存からの回復を考え、支えるために」

パネルディスカッションでは、依存症の当事者団体である栃木DARC の取組、日本で最も多くの女子受刑者を抱える栃木刑務所における薬物依存離脱指導の状況、栃木県の独自の取組で、薬物事犯で満期釈放となった人や保護観察が終わった人に教育プログラムなどを提供する「とちぎ薬物再犯防止サポート事業」が紹介されました。

コーディネーターの荻上チキさんが時事の報道にも触れつつ、鋭く切り込み、また、白鳥久美子さんが率直な感想やご自身が感じた思いを投げかけたことで、参加者も依存症の方の回復を支えることについて、深く考えることができました。



成瀬暢也氏

栃木DARC 栗坪千明氏

栃木県保健福祉部薬務課長

栃木刑務所教育専門官



荻上チキ氏

たんぽぽ 白鳥久美子氏

○連携

成瀬先生から、当事者団体、地方公共団体や刑務所等の連携の重要性と、地域の中で生きづらさを抱える人を支援するために連携がテーマになることをご指摘いただきました。

○刑務所の変化

刑務官が薬物依存離脱指導のグループワークに参加し、受刑者の生きづらさを理解して日常生活の指導に生かしていることや、受刑者にダルクの利用を勧めていることが紹介されました。

○依存症の方への向き合い方

成瀬先生から、自身も依存症に対する偏見があったが、回復者やその家族と会う機会が増え、依存症が回復できる病気なのだとし、認識が変わったとの経験を、白鳥さんからは、知識がなかったことを反省し、正しく理解していきたいとの意欲をお話いただきました。また、荻上さんから、ケアは特別なことではなく、ただここに居てもいいという安心感を与えることであり、仲間で居続けることがとても大事な支援だと紹介いただきました。

○地方公共団体が取り組むに当たって

まずは関係機関が顔の見える関係を作り、チームとしてそれぞれの得意分野を生かすことが重要だとの見解が示されました。

参加者のご意見（アンケート回答から抜粋）

- 講演がとてもわかりやすかった。
- 講演の時間が短く感じたので、詳しい話をもっと聞きたかった。
- 地域の連携、正しい知識の重要性を理解することができた。
- もっとたくさんの方にも聞いてもらいたい内容だった。
- コーディネーターが素晴らしかった。
- 白鳥さんが緩和剤になってよかった。
- 今後の参考にレジュメや資料が欲しかった。
- プロジェクターの文字が小さくて見えず残念だった。

ご希望に応え...

成瀬先生の資料をホームページに掲載します！

依存症や再犯防止への理解度（平均）

参加前	6.6
参加後	8.1

「理解できた」を10「理解できない」を1としてお聞きしたところ、1.5ポイント上昇しました。参加者の方と薬物依存からの回復について、理解を深めることができましたと考えています。